

行政視察内容報告書



平成 28 年 7 月 14 日

土佐清水市議会議長
永野 裕夫 様

総務文教常任委員会

(提出者) 氏名 細川 博史



下記のとおり報告します。

項 目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	仲田強、岡本詠、細川博史、浅尾公厚、西原強志 永野裕夫 計 6 人
期 日	平成 28 年 6 月 9 日

【概要】 場所・内容)

○ 視察先: 四万十市不破上町1949番地1「スクールミール中村南」

○ 議 題: 学校給食センターについて

1. 実施に至るまでの経過
2. 実施に向けての課題と取り組み
3. 現在の状況(給食費の納入、保護者・子どもの様子)

職員により、実際に施設を移動しながら細かな説明を受けた。

まず、この施設の運営形態は共同調理場方式をとっており四万十市25校の調理を、給食センター4施設でまかなっているとのことであった。

四万十市の給食については、昭和33年中筋小学校の1校(自校方式)から、平成14年、『スクールミールひがしやま』運営開始に至るまでには、検討委員会の中で様々な議論がなされ、関係機関との協議、検討があり、平成21年『スクールミールなかむらみなみ』が運用開始となった。

ここは、1日1,600食の調理能力があり、調理・配送業務等は、全国展開をしている業者(株)メフォスへ委託している。

また、適正な運営を進めるため「学校給食センター運営委員会」を年1回開催し、食育、衛生、調理、アレルギー対策などの研修や講習等を実施している。

地産地消推進に関しては、市内生産者のもと、安全、安心な野菜や米などを優先的に購入し、不足する野菜類は、市内産を優先的に、又可能な限り市内製造品や市内業者に配慮した取り組みがなされている。本市としても、見習うべき点ではないかと考える。

給食費の滞納問題は、どこの自治体も頭を悩ませるところである。

四万十市では、給食費滞納者が1.8%とかなり多く、金額にすると、1,000万円もの累計

滞納額である。これは、今後の大きな課題となっている。

以前、西土佐で、保護者から直接、集金していた時は、滞納率は0%であった事を考えると、集金制度のやり方の問題も伺える。

いずれにしても、今回の視察は、総務文教委員会としては、大変有意義な視察で勉強になった。

今後は、一つ一つの問題をクリアしながら、生かしていけるように頑張りたいと考えてころである。

以上